

著 布施はるか
画 Po*
原作 すたじおもみじ

危険日狙って
孕ませ
女子園
HAPPY! DANGER!!



ぶちばら文庫



こんな目に遭わせて……！
ただじゃおかないから……！



脱
はがしちゃダメえっ！
恥ずかしいよお……！



わたし、オマ×コ全部で
感じちゃってますう……！

目 次

プロローグ	抑えられぬ欲望……………	5
第一章	童貞卒業……………	8
第二章	腕試し……………	46
第三章	加速する性欲……………	80
第四章	誘惑に駆られて……………	110
第五章	危険日を狙え……………	142
第六章	妊娠検査……………	174
第七章	男の責任……………	226
エピローグ	禁断の幸福……………	258

「そんなぁ……。褒めすぎだよ、健ちゃん。まだまだお母さんには敵わないし」とはいえ、穂乃香も褒められてまんざらではないらしい。モジモジと手を合わせてテレる姿が愛らしかった。

「そうだ。何か、お礼をしたいんだけど……。何がいいかなあ？」

「そんな……。お礼だなんて、いいよ。健ちゃんとわたしの仲だもん」

穂乃香は幼なじみとしての関係を率直に告げたのだろが、今の健太にはもっと深い意味に聞こえた。だから彼は、素早く周りに目を配る。いつの間にか、屋上にはふたり以外誰もいなかった。そろそろ昼休みの終了を告げるチャイムが鳴る頃合なのだ。

「チャンスだ……！ 健太は咄嗟にそう判断した。まさに絶好の機会だ、と。」

「じゃ、美味しいお弁当のお礼に、穂乃香を気持ちよくするっていうのは、どうかな？」

「え……？ わたしを……気持ちよく？ それって……。どういう……」

ちょうどその時、屋上にチャイムの音が鳴り響いた。瞬間、穂乃香の注意が健太から逸れる。その隙を衝き、健太は穂乃香の両肩を抱いて屋上の床へそつと押し倒した。

「あっ!？」

「大丈夫……。じつとしてよ、穂乃香。すぐに気持ちよくしてあげるから」

穂乃香の制服のボタンを外し、手を差し入れて胸を触る健太。

「あ、あぁん……。ど、どうしちやつたの健ちゃん？ ダ、ダメだよお、こんなの……。」

あぁあ……。はっ！ は、恥ずかしいからあ……！

嫌がる穂乃香だが、抵抗は弱々しい。それをいいことに、健太はゆっくりと胸を愛撫しながら、ブラウスを大きくはだけさせた。

「や……。!? ほ、本当に……。ダメだつてばあ……。ひあつ！ やぁん。スカート、捲っちゃ、やだあ……。あ、あう……。ね、ねえ……。健ちゃん？ エッチなコト、しないでえ……。あぁんっ！ ソ、ソコお……。触っちゃダメえ……。!」

穂乃香が身を振って抵抗し、なんとか健太を説得しようと訴える。けれど健太は、太腿に滑らせていた左手を徐々に幼なじみの秘部へと這わせていった。その一方で、右手でポリュームのある乳房を露わにさせたブラジャー越しに堪能し、熱心に愛撫していく。

「あぁあ……。うっ!? け、健ちゃん……。わたし、気持ちよくなくていいからあ……。は、恥ずかしいの……。本当だよ？ ね……。? だから……」

「うん……。だけど、こうしていると気持ちいいでしょ？」

ぶつくらと膨らむショーツのクロッチ部を、健太は指先で擦り上げた。化繊と綿で二重になった生地が、指の動きと穂乃香自身のわななきで媚肉の隙間に喰い込んでいく。

「んっ!? あ……。そ、それは……。はあっ！ あ、ん……。い、いきなりだったから……。あう、うっ！ はあ、はあ……。そんなの、わからないよ」

力なく左右に首を振る穂乃香だったが、その声はしだいに上擦り、甘い響きも混じり始

めていた。それを強く意識して、健太は執拗にクロッチ部を弄び、グリグリ捏ねまわす。
 「ひあつ!? ああう……! へ、変だよお。身体、熱くなつてえ……、んあ? かうん。
 健ちゃんの手……、あああ、ソコ……、んふうっ!!」

ふと、布地を通して滲みでたヌメリが指先を湿らせ、健太は嬉々とした。

「穂乃香、感じてきてるんだね? ほら、もっとよくしてあげるからね……」

言うが早いか健太は、胸を揉んでいた右手でブラを強引にたくし上げ、クロッチ部を責め立てていた左手でショーツを掴んで半ば乱暴に引き擦り下ろしてしまふ。

「ひああ!! 脱がしちゃダメえっ! ああん。は、恥ずかしいよお……! ひい、ん」

プルンと露わになった柔らかくたわむ乳房。下半身では左足から完全に抜けた薄布が右腿の途中で丸まって引っかかり、鈍く光るヌメリをまとう秘部が無防備にさらされた。

これは妄想ではない。今、健太の目の前にある現実だ。生の乳房、生のヴァギナに、健太の目は釘づけとなる。ゴクリと生唾を飲み下し、健太はしばし目の前の光景に見入る。

「ね、ねえ、健ちゃん? ほ、本当に、やめ、て……。これ以上は……」

健太の動きが止まっていたのは、わずかな間のことだった。穂乃香が発した言葉を合図に、彼は再び乳房をねっとり揉みしだき、乳首を指先で転がす。

「はああんっ!? そこお……! はああ……。び、敏感だからあ……。はあ、あふう! そんなふうにいじくったりしたら、ダメなんだからあ……。んっっ! ふああ……。ホン



楽しげに笑う健太は穂乃香の顔を覗き込んだ。すると……。

「やあ……！ あんまり見ちゃ……。は、恥ずかしい……。恥ずかしいよおお……ん」
未だ余韻の中にあつた穂乃香だったが、すぐに真つ赤になつて健太の肩に顔を埋める。
そのリアクションが健太の胸をキュンとさせた。すでに先刻からズボンの股間に高々とテントを張つていたイチモツも、窮屈なスペースで狂おしいほどに身悶えている。

「穂乃香……、俺も気持ちよくしてほしいんだけど。いいよね？」

健太は言葉だけでなく、ピンピンに反り返る己れの分身でもアピールした。熱く硬い勃起を、ズボン越しに愛液の滲むショーツのクロッチ部へと押し当てたのだ。

「や……!!? す、凄い……。こんなに大きくなつて……。……」

穂乃香が目丸くする。実物を見なくとも、複数の生地を間に挟んでいても、肉棒を押しつけられた秘部は健太の高ぶりの大きさをハッキリと認識できた。初体験の時の記憶が生々しく脳裏に甦り、穂乃香は小さく身震いする。あの時の快感をまた味わえる。穂乃香の女心が込み上げる期待に熱く火照つた。ところが、である。

「穂乃香、俺、穂乃香の中に直接入れたい。そしたら、すぐぐ気持ちいいと思うんだ」
ストレートに欲望を口にした健太に、穂乃香はいっそう目を見開いて驚く。

「えええっ!? な……。中に……。直接……。だ、だけど……。あの……。な、中で、出したら……。あ、赤ちゃん……。できちゃうかもしれないよお。ダメだよ、そんなの」

「そんなこと言わずにさ。ほら、穂乃香だつてもつと気持ちよくなれると思うよ？」

健太は言うなり、左右の手で穂乃香の胸やヒップを撫でまわした。絶頂から間もない穂乃香の身体は、刺激に対して敏感になつてゐる。乳首を摘まれ、尻肉を鷲掴みにされて、弾かれたかのように身を振る。

「ふあああつ！ あうん……。ひああ!? くふ、ううんつ！ や……。やああ……。だ、だつてえ……。ひいんつ!? ダ、ダメだよお……。そんなの……。ひやんつ!?」

「大丈夫。そんなに簡単に妊娠したりしないよ」

「あう……。そ、それは……。うう……。そ、そうかもしれないけど……。ひあ!? ああんつ！ あうう、ふうふう……。……」

「ねえ、いいでしょ？ 穂乃香、俺のことも気持ちよくさせてよお。ね？」

姉に甘える弟の如き口調で健太はねだつた。むろん、愛撫の手を休めることなく。繰り返し刻まれる刺激に、穂乃香の喘ぎは大きくなつていく一方だ。

やがて、伏し目がちに瞳を泳がせて逡巡していた穂乃香が、ふつと視線を上げる。

「う……。うん。いいよ……。わたし……。健ちゃんを気持ちよくしてあげたい……。……」
囁きとも呟きとも取れるような声で、けれど穂乃香は確かにそう言つた。

「ありがとう、穂乃香！ それじゃあ、いくよ……。……」

妄想を現実のものとして嬉々とする健太は、早速ズボンから剛直を開放する。濡れそぼ

る秘部に亀頭の先端を押し当て、一気に奥まで貫く。

「ひあ!? ふわああああーっ! ああうっ! ひい!? 凄……いいっ! ひうんんっ!」
 「うおおおっ!? 穂乃香のオマ×コ、すっごい気持ちいいっ! ドロドロに蕩けて……、俺のチ×ポを呑み込んでいく……みたいだっ!」

前回と違って直に互いを感じたふたりは、ひとつに繋がった実感と快感に酔いしれた。本ことに健太は、ガチガチの分身にねっとり絡みつく肉壁の感触に感激し、夢中になる。本能のまま大きく腰を動かし、うねりざわめく膣壁を堪能しようと肉棒で突き上げる。

「んんうっ! ひあんっ! あう……。はあ、はあっ! あう。ふわ、あああん!」
 ん、くう。け、健ちゃんっ! もう少し、ゆっくり……。お願い……。はあんんうっ!」

少々苦げに穂乃香が訴えた。健太はハツとし、慌てて腰の動きを抑える。

「ゴ、ゴメンよ、穂乃香……。俺、つい気持ちよすぎて……」

「ああん! あんっ。はああ……。そ、そんなにわたしのオマ×コ……。気持ち、いいんだあ……。うふっ。はあっ! あふうう……」

喘ぎながらもテレくさそうにはにかむ穂乃香。それが健太を悦ばせた。

「う、うんっ! 最高だよっ、穂乃香あっ!」

「わ、わたしも……。健ちゃんのオチ×チン、凄く感じる……。よ? ひやうっ! んあ、はあんっ! 奥まで、凄く届いて……。ふわあっ! 赤ちゃんの部屋……。ゴツゴツっ



ぶちばら文庫

危険日狙って!?孕ませ学園

2012年 1月20日 初版第1刷発行

■著 者 布施はるか
■イラスト Po*
■原 作 すたじおもみじ

発行人：久保田裕
発行元：株式会社パラダイム
〒166-0011
東京都杉並区梅里2-40-19
ワールドビル202
TEL 03-5306-6921

印刷所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などを行うことは、
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

©HARUKA FUSE ©すたじおもみじ

Printed in Japan 2012

PP040



ぶちばら文庫29
田中珠 著
よろづ 画
ディーゼルマイン 原作
定価 670円(税込)

好評発売中

手にした力で欲望が加速する…!!

純人はある日、見覚えのないDVDを見つける。その中身は、ミスターzowと名乗る男による催眠術講座だった。半信半疑ながらも初級編の『誘導』を覚えてクラスメイトを相手に実践してみると、見事催眠にかかり自ら服を脱ぎだして!?



催眠好きですかね?
～アイドルだつて発情させます～





ぶちばら文庫31
布施はるか 著
唯々月たすく 画
アトリエかくや 原作
定価 670円(税込)

才斗のクラスに女の子が転校してきた。その女の子——ユリーシャは、美しい顔立ちと穏やかな性格から、瞬く間に学園の人気者に。しかし、ある日、才斗は彼女が狼女であるという秘密を知ってしまう。しかも、彼女は発情期のまっただ中で!?



好評発売中

気になるあのコはオオカミ娘っ!?



ぶちばら文庫17

沖田和彦 著

熊虎たつみ 画

Parthenon 原作

定価 670円(税込)

珊ちゃんはある伝説の十二天使の
生まれ変わりなんです!!

妹の誕生日に現れた天使コエルは、そう
言って珊を天界へ連れて行こうとした。
唯一の家族を失うわけにもいかず、護は
謎の神父の言葉を信じることにする。そ
れは、珊のお腹に新しい命を宿せば、連
れ去られずにすむというもので…。



妹天使は、
赤ちゃん作らないと昇天しちゃうよ!



いもうと ぱら
妹★ませつくす

好評発売中